



SPORTS TOWN. GOTEMBA

富士山の麓でスポーツ交流

スポーツタウン御殿場 2022年度 事業報告書

スポーツタウン御殿場推進協議会事務局

2023年4月12日(水)



- 01 部会の開催状況
- 02 情報発信事業
- 03 サイクルツーリズム事業
- 04 スポーツイベント誘致・開催支援、
トップアスリートをみる機会の創出
- 05 東京2020大会レガシー事業

4部会の開催状況

本協議会参画団体が4部会に分かれ、総会で承認を受けた事業計画の磨き上げや次年度計画に向けた意見交換を実施。団体間での情報共有や交流が生まれる副次的な効果があった。

スポーツツーリズム部会

開催日：6月13日

協議内容：

スポーツツーリズム（市内回遊、アクティビティ、合宿など）の現状について意見交換

開催日：2023年3月6日

協議内容：

ホームページによる情報発信・広報PRグッズによる認知度向上・スポーツイベントの誘致・開催支援について意見交換



スポーツ交流部会

開催日：6月23日

協議内容：

各団体で行われている取組みについて情報共有、意見交換

開催日：2023年3月13日

協議内容：

各部会員の取組みを共有。次年度事業計画について意見交換



サイクルスポーツのまちづくり部会

開催日：6月27日

協議内容：

各団体で行われている取組みについて情報共有「ツール・ド×GOTEMBA」のコース、拠点検討。

開催日：2023年3月8日

協議内容：

次年度計画について意見交換



空手のまちづくり部会

開催日：9月11日

協議内容：

市空手道連連盟理事会にて東京2020レガシー空手大会の説明、意見交換。

大会までの間、随時関係者と打ち合わせを実施

開催日：2023年3月4日

協議内容：

次年度大会に向けた大会概要・選手選考など意見交換

目次



- 01 部会の開催状況
- 02 情報発信事業**
- 03 サイクルツーリズム事業
- 04 スポーツイベント誘致・開催支援、
トップアスリートをみる機会の創出
- 05 東京2020大会レガシー事業

ホームページの管理・運用



初年度として93記事の更新を行ったが、更新記事数にカテゴリー差があり、すぐに流れてしまう記事が出た。閲覧者は約10万総ページビュー数があったが、1人当たりの平均訪問数が少なく、ホームページ内の回遊性向上が課題となった。

内容

■カテゴリー別記事更新数/93記事

○サイクリング	8記事
○ゴルフ	13記事
○乗馬・馬術	4記事
○アウトドアスポーツ	3記事
○空手	15記事
○スポーツライフ（市民向け情報）	50記事

■HP情報

- ユーザー数：44,988
- サイト閲覧数：60,129
- ページビュー数：101,179
- ユーザーの平均訪問数：1.35

○令和4年度閲覧者の多いページトップ5

1. ちいさなUTMF2022/8,795
2. スポーツタウン御殿場HPトップページ/8,584
3. 東京2020大会レガシー空手大会/7,995
4. パレットごてんば/4,716
5. ごてんばサイクリングコースガイド「富士一」/4,515

■コンテンツの更新

- イベント企画記事の制作（4件）
 - ・富士山グルメライド（9月）
 - ・富士山1周サイクリング（9月）
 - ・ちいさなUTMF（10月）
 - ・三井住友VISA太平洋マスターズ（11月）
※太平洋マスターズ御殿場協会の予算で制作
- モータースポーツ特設ページの開設（3月下旬）
- 空手体験・合宿特集ページの開設（3月下旬）



HP QRコード



スポーツタウン御殿場ロゴマークの活用

スポーツタウンの認知度向上を図るため、市内各所へ横断幕等の掲出や、ロゴ入りフリースジャケットなどの広報グッズを制作、各種団体様にもロゴマークを使用していただき、市民を中心にスポーツタウン御殿場の認知が広がった。

横断幕・懸垂幕・看板

4箇所掲出（市庁舎壁面、陸上競技場、御殿場駅、御殿場IC出口）



ロゴマーク使用申込

申込件数：8件 使用内容：Tシャツ、パンフレット、チラシ

申込団体：市スポーツ協会、市野球連盟、等



フリースジャケット

申込数：650着（市役所、協議会関係者、市民）

ユニクロホームページに事例紹介として掲載が決定。



ピンバッジ・ウィンドジャケット

申込数：ピンバッジ 176個、ウィンドジャケット 234枚

ピンバッジのみ富士山御殿場・はこね観光案内所で継続販売。



目次



- 01 部会の開催状況
- 02 情報発信事業
- 03 サイクルツーリズム事業**
- 04 スポーツイベント誘致・開催支援、
トップアスリートをみる機会の創出
- 05 東京2020大会レガシー事業

サイクリングイベント開催・支援

コロナ禍における国や県のイベント指針を遵守し開催。
ライドアラウンド、富士山1周サイクリングとも東京2020大会1周年イベントの承認を受け、大会レガシーとしてサイクリング好適地であることをPRした。

ライドアラウンド in 御殿場

主催：スポーツタウン御殿場推進協議会

6月23日（木）～9月12日（月） 会場：市内約100のスポット

- ・137名が参加、延べ3,204施設にサイクリストが来訪。参加地域は県内65%、関東圏25%
- ・イベント参加を通して、初めて小学生の子どもと一緒にサイクリングできたなど、市民が自転車に乗るきっかけを創出できた。アンケートの結果、全員から次回も参加したいという結果を得た。

参加者アンケート

- ・初めて通る道や場所、発見があり達成感や楽しさがあった。
- ・オリンピックのレガシーを巡れたことは本当によかったです。
- ・自転車に乗るきっかけが出来た。
- ・夏開催は賛否両論だった。（夏休みで参加しやすい、暑い）
- ・市街地にスポットが集中していてその区間は自転車を楽しむことが難しかった。



フォトコンテスト応募作品

サイクリングイベント開催・支援

富士山1周サイクリング

主催：(一社)ルーツ・スポーツ・ジャパン 共催：御殿場市

9月11日(日) 会場：富士山樹空の森 参加者：686人(北海道～長崎県から参加。東京都167人、神奈川県128人)

- ・年齢：12歳～77歳。年齢層最多：40代で233人。全国の老若が集まり富士山の集客力の高さを感じるが、2019年大会の1,161人に比べ半減。コロナ禍によるイベント中止の懸念もあり、イベントへの参加が戻りきっていない現状を感じた。
- ・天候に恵まれ、最高のロケーションのもと開催。参加者の笑顔が溢れた。
- ・116kmのコースに6箇所設けた休憩所で地域グルメを提供。
- ・富士山ごてんばサイクリングプロジェクト(FGCP)のメンバー25名がガイドサイクリストとして運営を支えた。
- ・前日に同会場でFGCPが富士山グルメライドを開催、約100人が参加。2日連続の開催とすることで宿泊を喚起した。



富士山ヒルクライム

主催：(一社)ルーツ・スポーツ・ジャパン 共催：御殿場市

10月16日の開催を目指し調整を進めたが、富士山1周サイクリングの申込み状況から、コロナ禍により1 dayイベントへの参加者が戻りきっていないと主催者が判断、次年度に開催を延期とした。

サイクリスト受入れ環境の整備

2021年に創設したGOTEMBA CYCLE FESTAを富士山1周サイクリングと同時開催。多くの市民が富士いちのゴール者を温かくもてなした。地元チームや企業との連携イベントも高評価を得られたため、連携先や回数の増加を目指す。

GOTEMBA CYCLE FESTA

主催：スポーツタウン御殿場推進協議会

9月11日（日） 会場：富士山樹空の森 参加者：約1,000人（感染症対策のため事前申込制）

- ・多くの市民がサイクリストを理解し温かくもてなす地域社会を目指すため、富士山1周サイクリング（富士いち）ゴール時間にあわせ集客し、多くの市民が自転車に親しむ機会を創出した。
- ・また、集客強化のため目的を同じくする既存の地域イベントFuji Climb Festivalを同時開催。
- ・多くの来場があり、会場内にカウベルの音が響き渡るなど、富士いち参加者にとって最高のもてなしとなった。



GOTEMBA CYCLE FESTAコンテンツ

- ・ランニングバイク体験（定員90名満員）
- ・富士いち完走者を貸出カウベルでおもてなし
- ・スポーツバイク体験、自転車グッズ販売（High Ambition2020jp.様協力）
- ・飲食販売（御殿場ベーカリービケット様協力）



Fuji Climb Festivalコンテンツ（同時開催：御殿場ベーカリービケット主催）

- ・ワークショップ（風船、スプーンづくり、コップづくり等）
- ・縁日（輪ゴム銃の射的、輪投げ、ヨーヨーすくい、メダカすくい等）
- ・飲食販売4店舗

サイクリスト受入れ環境の整備



サイクリスト受入れ環境の整備

御殿場駅箱根乙女口階段下の自転車整備スペースへの案内を設置。併せて、過去設置して利用者の多かったサイクリスト用フォトモニュメント老朽化を確認。次年度代替品を設置予定。

地元チームや企業とのサイクリスト誘客

ツール・ド×GOTEMBA

主催：スポーツタウン御殿場推進協議会

【スポーツ庁補助事業】

9月10日（土）～11月13日（日） 会場：時之栖を発着とする3コース

- ・オリンピックコースを楽しめる2コースと富士いちコースの計3コースを造成し、スマートフォンアプリに掲載、期間内に走破すると記念品がもらえるサイクリスト誘客キャンペーン
- ・「東京2020オリンピック自転車競技ロードレースコースがあるまち」「富士山1周サイクリングコースの拠点都市」の認知のさらなる拡大、定着化を図るため企画。
- ・駐車場利用無料、定休日無し、宿泊・飲食・温浴・土産施設併設、部屋への自転車持込可能などサイクリストに喜ばれる条件が揃っていることから、時之栖を発着拠点を依頼。
- ・378人参加、県内からの参加者が最多、次点は神奈川県
- ・ホームページ閲覧者約10,000人、Twitter閲覧者12,000人超などの広報効果
- ・1 Dayイベントと違い、参加者自身のタイミングで参加できることや、一堂に会するイベントに抵抗のあるサイクリストに一定の需要があることが分かった。



サイクリスト受入れ環境の整備



トップアスリートから学ぶセミナー&ファンライド 主催：High Ambition 女子サイクリングアカデミー

11月26日（土） 会場：御殿場高等学校 参加者：40人

- ・全日本ロードレース元王者で現役選手の佐野淳哉選手を招き、御殿場高校ハンドボール部（県大会優勝、全国大会出場）および公募参加者向けのセミナー&ファンライドを開催。

セミナー

- ・大舞台で結果を出すための準備やメンタルの保ち方、佐野選手が海外に移籍し実感したチームワークの大切さなど、トップアスリートならではの話があった。
- ・High Ambitionから阿部花梨選手も登壇し、女子アスリートの視点や経験が語られた。
- ・また、自転車競技の魅力やロードバイクの体験を通して、佐野選手の身体能力の高さを体感、普段触れる機会の無い自転車の世界を楽しく学ぶイベントとなった。

ファンライド

- ・高根地区にあるわさび農家から富士スピードウェイまで走るオリンピックレガシーを巡る、地元ガイド&サポートカー付きツアーとして実施。
- ・晴天時には雄大な富士山を眺めることができるレガシーコースをトップアスリートと走り、走り終わった後はカフェで交流するなど参加者に大変好評であり、継続開催が期待された。



目次



- 01 部会の開催状況
- 02 情報発信事業
- 03 サイクルツーリズム事業
- 04 **スポーツイベント誘致・開催支援、
トップアスリートを見る機会の創出**
- 05 東京2020大会レガシー事業

スポーツイベント誘致・開催支援

「UTMF」や「ちいさなUTMF」などのイベント開催支援に加え、「モルック」の大会や「ハッスル・マッスル」といった新たなスポーツイベントを誘致・開催支援した。イベント誘致をきっかけに新たなスポーツ文化が市内に誕生した。

UTMF (ウルトラトレイル・マウントフジ) 主催：ウルトラトレイルマウントフジ実行委員会

共催：御殿場市、富士市、富士宮市、裾野市、見延町、鳴沢村、富士河口湖町、富士吉田町、忍野村、山中湖村

4月22日(金)～24日(日) 参加者数：2,437名(北海道～沖縄県 東京都557人、参加者の55%が関東圏)

- ・時之栖での事前受付・必携品チェックやスタート会場までのシャトルバス運行が行われたことにより、400人以上が市内に宿泊。市内宿泊者には、本市オリジナルUTMFステッカーをプレゼント。参加者からは「御殿場の温泉が最高だった」などの声をいただいた。



大会が掲げる環境負荷軽減プロジェクトの一環として、今大会から始まった環境負荷軽減活動募金ガチャの景品として「アグリーモンスターベリーのイチゴ」「御殿場みくりやそばセット」を提供した。(一回500円。622名が参加。寄付金額は311,000円)



スポーツイベントの誘致・開催支援



ちいさなUTMF

主催：（一社）アールビーズスポーツ財団

10月22日（土）、23日（日） 会場：御殿場高原 時之栖MTBパーク FUTAGO

参加者数：449人（過去最多人数） 参加者の50%が県内、東京・神奈川は30%

- ・ 2019年に創設され今年で4回目の開催。
- ・ 大会の景品として御殿場市こだわり推奨品を提供。
- ・ 会場には本市PRブースを設置し、レース終了の参加者に地元「二子のさくら卵のシュークリーム」をプレゼント。
- ・ コース途中から見える富士山に「すごい！」「絶景！」と参加者から絶賛の声が上がった。
- ・ 首都圏からファミリーでの参加者からは、お土産購入だけでなく、市内の自然環境で遊ぶ場所の照会もあった。



スポーツイベントの誘致・開催支援



第2回東京モルックチャンピオンシップ in 御殿場

主催：ヒューマンブリッジ、エニタイムモルックジム、SAKURAN333
協力：高根ふれあい広場 中郷館、御殿場市観光協会、御殿場市

2023年1月8日（日）、9日（月）会場：高根ふれあい広場・中郷館

参加者数：500人（北海道～九州）※市民30人が参加



- ・大会主催者が御殿場市出身という縁から、世界最大級の『ペア戦』が開催された。
- ・世界選手権出場へのポイント獲得大会として、世界チャンピオンのほか、全国からモルッカーが会場。
- ・大会開催に高根地区が全面協力。グラウンド整備やテント設営、当日の運営補助を行い大会を大きく支援したほか、併設イベント「モルフェス2022」に多くの団体が出演し、大会を盛り上げた。
- ・市は市内企業の紹介により協賛企業の獲得に繋がったほか、モルフェスへの飲食出店を市商工会に依頼、広報協力等を行った。
- ・参加者からは「富士山がとても綺麗だった」「富士山の近くでモルックができて最高だった」などといった声がSNSであがった。
- ・開催を契機に日本モルック協会公認団体「NAKA-Möl Gotemba」や、同友好団体「西田中スパイクボックス」といった市内チームが誕生。さらに市スポーツ推進委員でもモルック大会を開催を計画するなど、急速な普及を見せている。
- ・開催後には主催者より、大会で使用したモルック30セットが子ども達への普及を目的に市内小学校へ寄附いただき、今後さらなるモルックの普及が期待される。

※モルックとは…木の棒を投げて、木の棒を倒しポイントを稼ぐフィンランド発祥のスポーツ。

ルールが簡単で老若男女問わず楽しくプレーができる

スポーツイベントの誘致・開催支援



第3回ドラゴンスキttlカップ in 御殿場

主催：エニタイムモルックジム
協力：高根ふれあい広場 中郷館、御殿場市観光協会、御殿場市

2023年3月18日（土）、19日（日） 会場：高根ふれあい広場

参加者数：約250人（東北～九州） ※市民が十数名参加



- ・東京モルックチャンピオンシップが高根地区の強力な支援のもと行われ、また本市のモルック普及が急速に広まったことを受け、世界選手権出場へのポイントをかけた世界最大級の『個人戦』が開催された。
- ・高根地区がグラウンド整備やテント設営、運営補助など大会を支援。
- ・大会景品として、本協議会から「御殿場コシヒカリ」等、高根地区から「わさび」等を提供し、喜びの声をいただいた。
- ・開催後には、主催者から市内小学校に大会で使用したモルック30セットの寄付をいただいた。

ハッスル☆マッスル忍者 - 御殿場公演 - 主催：株式会社OTT 後援：御殿場市空手道連盟 協力：御殿場市

2023年5月5日（金）、6日（土） 会場：市民会館

御殿場西高等学校空手道部出身で東京2020オリンピックに出場した佐合尚人氏と同校空手道部出身の小笠原大晃氏が、アスリートの演技を通して「体を動かすことの大切さ」「一生懸命になることの素晴らしさ、美しさ」を本市の未来を担う子ども達に伝えたいという思いから、本市での開催の話をいただいた。トップアスリートを見る機会の創出や、空手のまちづくりというスポーツタウンの理念と一致するため、支援を決定した。

トッパスリートのみる機会の創出

ホームページや市広報媒体などで積極的に情報発信を行ったほか、市民のスポーツをみる・応援する機会を年間を通して創出した。来年度も引き続き広報に力を入れ、多くの市民に周知していく。

トッパスリートをみる機会の創出

近隣で行われるスポーツイベントの広報および観戦勧奨

- ①市SNSやスポーツタウン御殿場HPでの告知
- ②広報ごてんばへの記事掲載
- ③モータースポーツ特設HPの開設
- ④しずおかしまち対抗駅伝 応援タペストリーの制作

展示期間：11月16日（水）～27日（日）

展示場所：けやき館、御殿場駅東西自由通路



広報ごてんば記事



応援タペストリー

2022年度に開催された国際的スポーツイベント

サッカーワールドカップパブリックビューイング開催

主催：原里地区振興協議会 日程：11月27日（日）会場：原里小学校

2022年度市内で開催されたイベント

第2回東京モルックチャンピオンシップ in 御殿場（詳細については13ページ）

世界チャンピオンや日本代表に選出された実績を持つ選手が出場



目次



- ① 部会の開催状況
- ② 情報発信事業
- ③ サイクルツーリズム事業
- ④ スポーツイベント誘致・開催支援、
トップアスリートをみる機会の創出
- ⑤ **東京2020大会レガシー事業**

トッパスリートとの交流

トッパスリートとの交流を通して、トッパスリートのメンタリティや身体能力を高さを体感し、競技振興やトッパスリートに憧れを持ち目指す、応援する機会を創出した。

トッパスリートとの交流

アスクラロ沼津との交流

2023年3月11日（土） 会場：パレットごてんば 参加者：60人

- ・本市とパートナーシップ協定を締結しているアスクラロ沼津の選手と市内中学サッカー部員との交流事業を開催した。
- ・アスクラロサッカースタッフの指導のもと大迫暁選手、前川智敬選手、杉本大雅選手の3名の選手とともに生徒がパスやシュート練習、ミニゲームなどを行った。
- ・参加した生徒は、「選手とプレーして技術を学ぶことができた。また話したことの無い子とコミュニケーションをとりながらプレーできて良かった。これからも細かいところを意識してプレーしたい。」と感想があった。



トッパスリートから学ぶセミナー&ファンライド

11月26日（土） 会場：御殿場高等学校体育館 参加者40人

詳細11ページ

空手のまちづくり



東京2020大会のレガシーを活用し、イタリアとの交流の継続や全日本空手道連盟との連携事業を展開、12月には御殿場市ならではの空手大会を創設した。これらの取り組みがスポーツ庁が行う「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰」を受賞した。

東京2020大会レガシーを活用

空手イタリア代表との交流

東京2020大会金メダリストのブサ・ルイージ選手と銅メダリストのヴィヴィアーナ・ポッター口選手から、12月に創設した東京2020レガシー大会へ祝辞動画をいただいた。

『学校訪問プロジェクトKarate Do』

主催：全日本空手道連盟
実施校：神山小学校、高根小学校 参加者：103名
全日本空手道連盟と連携し、市内学校で空手授業を実施。子どもたちに空手を知る機会を創出した。

本市空手資源をPR

空手ツーリズム推進のための特集ページの開設

参加道場：市内6道場
空手を通じて全国から人が訪れるように、スポーツタウン御殿場ホームページに空手合宿・体験特集ページを開設。

スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰 受賞

スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰式典

11月18日（金）会場：東京都千代田区大手町三井ホール

受賞数：20自治体

内容：

スポーツ庁が東京2020大会後のレガシーとして「スポーツ・健康まちづくり」に積極的に取り組もうとしている自治体を応援する表彰制度に、本市の「空手のまちづくり」が受賞した。表彰式典では、後日室伏広治スポーツ庁長官が視察する1自治体を決める抽選会にて本市が選ばれた。



空手のまちづくり



東京2020オリンピック競技大会レガシー大会の創設

空手道 Mt.Fuji Junior Championship in Gotemba

主催：スポーツタウン御殿場推進協議会

競技主管：御殿場市空手道連盟

【スポーツ庁補助事業】

12月3日（土） 会場：御殿場市体育館 来場者：800人 Web配信閲覧者：10,000人以上
大会コンセプト

空手のまちづくりの象徴となる空手大会を創設

1 世界での活躍を目指す高校生のステップアップとなる大会

- ・ 高校年代日本代表クラスの選手のみが出場し、全ての試合で高いレベルを実現
- ・ 世界ジュニア選手権のルールを採用
- ・ オリンピックで空手界初採用された予選ラウンドロビン制を採用

2 空手や武道の魅力を空手発祥国日本の高校生を通じ国内外に発信する大会

- ・ 「魅せる空手」を意識した演出（ライト演出、大型ビジョン、会場MC等）
- ・ 生解説入りYouTube動画配信により空手の魅力を国内外に発信（視聴件数10,000件以上）

3 東京2020大会のレガシー大会として空手競技の普及に寄与し、2028年ロサンゼルスオリンピックでの空手競技採用に向けた機運醸成を兼ねる大会

- ・ 大会コンセプトにご賛同を得て、世界空手連盟、全日本空手道連盟、静岡県空手道連盟が大会を後援。



空手のまちづくり



出場選手

- ・ 35年連続インターハイ出場、史上初となる4連覇を達成中の御殿場西高等学校が全面協力
- ・ 大会への出場のほか、空手道部の細矢監督（日本ジュニア代表選手強化委員責任者）の声掛けで多数の高校日本代表選手、インターハイ王者、世界選手権出場選手などが出場。

審判監修・解説

- ・ 大会の審判監修には、東京2020大会日本人唯一の審判員を務めた高橋和夫氏に依頼、また東京2020大会でNHK解説を務めた松久功氏と大会に出場した佐合尚人氏が解説員を務めた。

来賓・メッセージ

- ・ 来賓として、笹川堯全日本空手道連盟会長、静岡県空手道連盟会長、国会議員等が来場。
- ・ 世界空手連盟事務総長やイタリア総合格闘技連盟会長、東京2020大会でメダルを獲得した空手イタリア代表選手からお祝いの動画メッセージをいただいた。

成果

- ・ 大会の特徴の全てが高校年代の国内大会で初となる取組みであり、観客、出場選手、審判員、運営員、関係者の全てから高い評価を得た。
- ・ オリンピックレガシーとして国から大きな評価を受け、2/21（火）スポーツ庁主催の地域スポーツコミッションシンポジウムにて先行事例として発表を行った。
- ・ 当日は800人の観客が来場、ウェブ配信は10,000人を超える閲覧があり、空手のまちづくりの象徴となる大会となった。





SPORTS TOWN.
GOTEMBA
富士山の麓でスポーツ交流